

企画展

藍あざやかに

古代に大陸から漢方薬として伝わった藍は、のちにわが国の代表的な染料として使われ、人々の暮らしの中に生きつてきました。

生活の中で実際に身に着けていた衣類など藍染めの様々な収蔵品や染色方法を紹介します。

江戸時代の寛文2年(1662)から水戸藩専属の「御用紺屋」が染めていた「水戸黒」という藍を下染めにして黒色を染める方法や当館で栽培している藍を使用した生葉染め・乾燥葉染め、新しい技法により紫や薄ピンク色に染められた作品などを展示します。



▲四季農耕風俗屏風(部分) 藍玉づくり(総合病院国保旭中央病院所蔵)



◀松田楽平肖像画(松田永子氏所蔵)



◀野良着を着ていたころ(昭和初期)



◀野良着半襟・田前掛け・股引

江戸時代に仙台藩の飛地であった龍ヶ崎村で染色業を営んだ松田楽平は、藍染めの技法を習得し、その高い技術が認められ仙台藩の本国(宮城県)に招かれ技術の普及と後継者養成に当たりました。



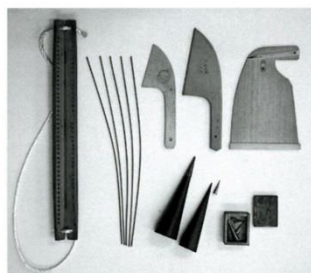
▶仙台藩より楽平が招かれた書状



▲江川でノリを落としている様子(昭和初期)
(伊勢屋染工場・龍ヶ崎市米町)



▲引き染めをしている様子(明治後期)
(白田染工場・稲敷市神宮寺)



▲染めの道具

関連事業

講演会

- ◆演 題：「今によみがえる水戸黒」
- ◆日 時：3月26日(日) 13:30～15:00
- ◆講 師：大川 哲さん(有限会社 大谷屋染工場)
- ◆会 場：資料館多目的室
- ◆受 講 料：無料
- ◆募集人数：50名(定員になり次第締め切ります。)

型染め体験

波紙に型を彫って糊(のり)付けをして本格的な藍染めが体験できます

- ◆開催日：①3月22日(水) ②3月25日(土)
- ◆開催時間：10:00～15:00
- ◆講 師：結城 春雄さん
- ◆会 場：資料館体験学習室
- ◆受 講 料：1,500円
- ◆材 料：木綿のハンカチ2枚
- ◆募集人数：各日12名(定員になり次第締め切ります。)

申込方法：2月25日(土)10:00より電話予約または、資料館窓口にお申込み下さい。